

それでは、今回は、大きく1点、税金ですね、「優先順位の考え方について」、お伺いいたします。

人それぞれ、物事の優先順位や考え方が違います。そのために、市民の方から集めた税金の使い方についての考えを政策として打ち出し、考え方一番近い人に託すのが選挙であります。さらに、議会はそれぞれの考え方を出し合う場でもあります。

今回は、税金の使い方、優先順位の考え方について確認をし、大府市と考え方がずれる部分は、私と市民の考え方が一致する点で、主張していけたらと思います。具体的に以下の三つの項目を例に質問をいたします。

1点目は、「公民館のエレベーター設置について」です。

正規職員を配置し運営しています大府市の公民館の存在は、人とのつながりが希薄な時代に必要な事業の一つとなっています。公の学習の場として、講演会や講座が開催され、地域の方の顔が見え、きずなが深まる団体がそれぞれ登録し、趣味や健康づくりなどで利用されています。高齢者の利用も多く、ふれあいサロンの会場として利用している地域もあります。

また、子ども会や子育てサークルとして、乳幼児を連れたママたちなど、幅広い層での利用も公民館の特徴です。さらに、公民館まつりなど季節の行事も行われており、地域の誰もが出入りできるのが公民館です。

しかし、公民館は現在、2階以上の建物ですが、ほとんどの建物にエレベーターが付いていません。誰もが集える、集ってほしい公の建物でありながら、足の不自由な市民や車椅子の方が集にくい場となっているのではないのでしょうか。エレベーターは、地域の拠点となる公民館には、今後、必要不可欠になると考えています。

そこで、以下の質問をいたします。

1項目目、大府公民館と森岡公民館にエレベーターが設置された経過は何か、お答えください。

2項目目、エレベーターのない公民館で、車椅子の方や階段の利用が困難な市民への対応はどのように現在行っているのか、お答えください。

3項目目は、全公民館にエレベーターの設置が必要と考えますが、設置についての計画はどのようになっているか、お答えください。

2点目は、「小中学校へのエアコンの設置について」です。

文部科学省では、公立の学校施設における空調、冷房の設置状況について、平成10年度からおおむね3年に一度、調査が行われています。

小さくて見にくいですし、お手元のものは白黒になっているかと思いますが、一番下のブルーの線が普通教室のラインとなっています。

平成29年6月9日発表の調査結果では、公立小中学校における普通教室・特別教室の全保有室数82万532室のうち、エアコンを設置しているのは34万2,267室で、41.7パーセントの設置率となっています。これは、平成26年4月の調査時の29.9パーセントと比べても11.8ポイント増えています。さらに、調査を始めた平成10年7月の6.6パーセントから比較しますと、大幅に増え、必要性の高まりが調査結果に出てきています。

その中でも、年間で一番長い時間、子供たちが生活をする普通教室の設置率は、この

19年間で3.7パーセントから約半数の49.6パーセントと、多くの教室に設置されています。

エアコンをいずれ設置するのであれば、計画的に早急に整備することで、本来の学習に集中することができたり、食欲が低下する夏の時期に適温の教室で給食をとることができ、暑さを乗り切る土台となります。また、室内でも起こり得る熱中症の予防となり、学校としても体調管理がしやすくなるのではないのでしょうか。

今ある扇風機と並行してエアコンを設置し、より効果的に適温が保たれ、学習に集中できる環境整備をする時期は、既に来ていると考えます。

そこで、質問です。

1項目目、小中学校の普通教室へのエアコン設置に向けて具体的な検討はされているのか、お答えください。

2項目目は、普通教室のエアコン設置の必要性について、どのように考えているのか、お答えください。

さらに、給食室の空調整備も急務です。特に夏場は、高温となる給食室で働く調理員の方の体調も心配です。受け持つ調理場にあわせて、スポットクーラーなどの整備は最低限必要ではないのでしょうか。

そこで、3項目目、給食室にスポットクーラーなどを設置し、調理員の体調管理を行う必要があると考えますが、見解をお聞かせください。

また、出来上がった給食を保管する配膳室にもエアコンが設置されていないため、外の気温が30度を超えた場合でも、常温で保管されることとなります。給食は、配膳室から各教室に運ばれ、子供たちを中心に教室で配膳されます。できるだけ、給食を安全な状態に保つことができるよう、配膳室にエアコンを設置するべきではないのでしょうか。

そこで、4項目目、配膳室にもエアコンを設置する必要があると考えますが、どのような計画になっているのか、お答えください。

大きく3点目は、「小中学校の施設の整備、修繕等について」です。

大府市内の小中学校は、100年を超えるなど歴史のある学校も多く、校舎も老朽化しています。100年を超える学校は4校ほどだったと思いますが、老朽化している校舎は多くあります。そのため、施設の整備や修繕は、各学校に割り当てられた予算では賄いきれない現状があります。毎年各学校から出される施設の整備についての要望には、水はけの悪いグラウンドの整備や利用できないトイレの改修、ランドセルなどの荷物が収まらない小さいロッカーの整備、窓の開け閉めで落下した危険な窓枠の取り替え、誤作動するガス漏れ警報器、災害時や不審者対応などの緊急時にも利用する各教室と職員室や保健室をつなぐインターホンの故障、カーテンの取り替えなど、中には、修繕されな

いまま何年間も同じ要望が挙げられている学校もあります。次年度に持ち越せば持ち越すほど、大きな修繕箇所が要望として更に上乘せされ、子供たちの教育環境や先生の働く環境に影響を及ぼしています。毎年各学校から出される要望や、その都度上がってくる要望は、子供たちの教育環境に直結しているため、ほとんどが、いずれ対応の必要な要望だと思います。

そこで、お伺いします。

1項目目、職員室と教室をつなぐ電話が使えないままなど、緊急に改修するべきものがすぐに対応できていない理由は何なのか、お答えください。

2項目目は、各学校からの要望を予算化していく計画は、どのように立てられているのか、お答えください。

最後に4点目、大府市の現在の財政調整基金について、お伺いします。

家庭でいいますと「自由に使える貯金」、大府市の現在の財政調整基金は幾らか、お答えください。

以上で、壇上からの質問を終わります。